

# 2011年 活動報告

Hondaの安全運転普及活動は今年で42年目を迎えた。この間、交通社会を取り巻く環境変化に即応するとともに、「交通社会に参加する全ての人の安全を守りたい」と願い活動を継続している。2011年は昨年に引き続き「地域に根ざした普及活動の定着化」と「社会に求められるノウハウの創出と発信」を重点テーマとして掲げ、活動を展開した。

## ① 地域に根ざした普及活動の定着化

### ホンダの交通安全教育のノウハウを全国へ

熊本を皮切りに、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域普及活動は4年目を迎え、交通安全を学ぶ機会と教育ノウハウを全国に拡げるための活動拠点として、定着してきている。その結



幼児から小学校低学年を対象にした交通安全教育プログラム「あやとりいひよこ編」は全国各地に広がっている

### 関連企業や自動車教習所との連携

果、地域が主体となった交通安全普及活動を担う指導者延べ8000人を養成するとともに、その指導者によって今年だけでホンダのノウハウを活用しながら、全国321市区町村、約40万人に安全を伝えることができた。今年からは幼児・小学生向け安全教育に力を入れ、あやとりシリーズなどのツールの活用により、今年だけで約30万人の子どもたちに交通安全教育を行った。



地区普及ブロックでは地域の指導者を対象に「あやとりいひよこ編」シリーズなど、Hondaの交通安全教育プログラムを普及



Honda パートナーシップ・インストラクターによる親子交通安全教室

一昨年から始まったホンダ関連企業の従業員で構成される「ホンダパートナーシップ・インストラクター制度」では、36社67名の第一期生インストラクターが各社周辺地域で参加体験型の親子交通安全教室など、積極的な普及活動を展開。今年には新たに21社33名の第二期生インストラクターが加わった。

ホンダ内では全国の製作所の従業員による「工場インストラクター制度」を再構築し、新規インストラクターの養成や再教育を通じて、製作所内外の交通安全に向けた取り組みが活発化している。また、全国36校の自動車教習所と連携した「サポート制度」では、二輪車安全運転実技講習や、自転車シミュレーターを活用した中・高校生に向けた自転車教室、一般向け各種交通安全イベントを開催し、地域から期待される活動として定着している。



北海道ホンダ販売(株)のお客様を対象にしたツーリングイベントで二輪車安全運転講習会を開催。指導は、連携自動車教習所である麻生自動車学校、苫小牧中野自動車学校、苫小牧ドライビングスクールの教習指導員が担当



連携自動車教習所の富山自動車学校と富山県ホンダ会(県内のHonda四輪販売会社で構成する組織)が連携し、地域の方々に交通安全への理解を深めてもらうため、「セーフティ・フェスティバル in 富山」を開催

## 販売拠点や交通教育センターでの安全運転普及活動の広がり



東京都のHonda四輪販売会社は合同で、約110店舗の販売店スタッフ(延べ約660名)が最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施

お客様と直接、接する販売拠点では各種交通安全イベントや東京都内のHondaの販売拠点周辺での交通安全街頭活動など、お客様に安全を手渡す様々な活動を展開した。「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」という店頭活動の原点に立ち返り、活動に取り組んでいる。

全国7カ所の交通教育センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型の実践教育を行っている。個人向けスクールでの安全運転スキル向上とともに、企業向け研修では動画KYT(5面参照)など新たな教育ツールを活用するなど、企業の指導者育成や従業員教育として多くの方々から評価を得ている。



Hondaの交通教育センターでは企業ドライバー安全運転研修会などを展開



## ② 社会に求められるノウハウの創出と発信

### コミュニケーション技術で新分野へチャレンジ

脳梗塞など脳血管障害となった方々は全国で約130万人と言われている。そして、こうした方々の中には社会復帰後に、クルマの運転を希望されている方がたくさんいる。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在しないため、医師



リハビリ患者の方の運転可否判断をサポートするためのシステムを東京都リハビリテーション病院などで検証

等の医療関係者がその判断に苦慮しているのが現状だ。そこでホンダでは、長年蓄積してきたコミュニケーション技術を活用して、医師によるリハビリ患者の方の運転可否判断をサポートするためのシステムの開発にチャレンジしている。このシステムによって、医療関係者へ一定の判断基準を提供し、「もう一度クルマを運転したい」と希望する患者の方を支援していきたいと考えている。

### 海外に向けたマザー機能の発揮



Honda Motorcycle & Scooter India (インド)では、販売店のインストラクターが中心となり、様々な会場で小学生から一般ライダーまでを対象に交通安全教育を展開

世界の交通事故死者数をみると、インドで約13万人、ベトナムで1万人以上と、特にアジア諸国における交通事故死者数が社会問題化している。ホンダは、長年取り組んできた安全運転教育のバイオニアとして世界のマザー機能を発揮し、各国の実情に即した展開を加速させている。安全運転普及本部では、二輪車市場が急激に拡大するインド、ベトナム、インドネシアを重点地域とし、各国の現地法人と連携しながら、長期ビジョンと展開計画を策定中である。

海外展開にあたっては文化や交通事情の違いによって、日本流のやり方をそのまま流用することができない。そのため、日本で教育手法の有効性について試行錯誤を繰り返して、ノウハウを蓄積していくことが重要であり、今後もアジアを意識した国内の活動を進めていく考えだ。